community-reactivating cooperator squad

Activities report 2021

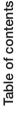


2021年「長浜市地域おこし協力隊」活動報告書

この想いに共感していただき、長浜市を中心に活動するカメラマンやデザイナーの方々にも 協力を得ながら、この冊子を完成させることができました。

それぞれのページには、第3期の5隊員の取組内容やその想いが綴られています。この5人が何者なのか、そして、どんな想いを持ってこれからの活動を進めていくのか。読んでいただいた方に伝わればいいなと思います。

長浜市北部振興局 まちづくり推進課



No

ものづくりで、地域の身近な魅力を見える化する **藤本 龍介** Ryusuke Fujimoto

No

02

すべては、馬と一緒に暮らす生活のために

隅田あおい Aoi Sumida

No

03

自然に寄り添った発想で、生産第一ではなく循環する林業を

》|堀田 涼介 Ryosuke Hotta

No

「木」と向き合いながら、山での生業で暮らしていく 子林 葉 Yo Kobayashi

No

05

地域資源の可能性と魅力を最大限に活かした商品づくり

中山 恵梨子 Eriko Nakayama



ものづくりで、

地域の身近な魅力を見える化する

長浜市に移住する前は、千葉県に住み、 <u>家具修理の仕事をしていました。今から</u> 3年前、豊かな自然と暮らしやすさが両 立している長浜市に魅力を感じて、地域 おこし協力隊の「空き家・古民家活用」と いうミッションでこの地に移住すること になりました。古民家に興味はあったも のの、不動産業のような活動をするイメ ージはできませんでした。そこで、前職を 活かし、空き家にある古い家具をリメイ クすることで空き家の家財整理を進め、空 き家活用につなげるという方向で活動を することにしました。

具体的には、水屋箪笥からフォトフレ ームを製作したり、古い建具からスツー ルやイーゼルを製作したりしています。

古い家具は、良い木材が使われている ことも多いので、味わいのある良い木工 品にリメイクすることができます。いろ いろなものにリメイクできますので、興 味のある方は是非ご相談ください。

余呉町に移住してから、木材がとても 身近になりました。同時に地域の木材が あまり活用されていないことを知り、湖 北の木材を使った家具製作をする活動も 始めています。丸太の状態で入手した木 材は、地域の製材屋さんで製材してもら ったり、チェーンソーと専用の治具を使 い、丸太を製材するところから始めたり して、家具・雑貨を製作しています。

また、どこで育っていた樹なのかを明 確に伝えることで、その場所にも興味を 持ってもらえればという思いで製作して います。例えば、余呉にある丹生神社のサ クラで作った木のしおりを買った方が、丹 生神社や余呉を訪れたくなるような情報 も一緒に発信できるように準備を進めて いるところです。情報発信をしながら長 浜市の木材を積極的に使うことで、観光 や移住にもつなげていけたらと考えてい

ものづくりを通して、長浜市で見過ごさ れている資源や魅力を見えやすい形に変え





藤本 龍介 Ryusuke Fujimoto

千葉県柏市出身。水泳が得意。趣味はトランポリン。大学では植物病理 学を専攻し、樹木に寄生する菌類のDNAを抽出して種を同定、分類す る研究をしていた。大学卒業後は、1年間木工の基礎を学び、家具修理 会社で椅子などの修理を経験。協力隊着任以降、ものづくりを中心に活 動を広げ、現在は、長浜市産の木材から木工品の製作や古民家にある古 家具のリメイクを進める。



INFORMATION

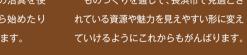
滋賀県長浜市余呉町上丹生2423

Mail: info@karte-remake.com

ホームページ https://karte-remake.com



1 作品の材料となる使われなくなった建具。 2 木のスプーン製作風景。3 いろいろな雑貨。フォ トフレームの素材は風倒木や古家具など。 4 木の しおりは、地元丹生神社のサクラから製作した。



I am Wood Creator

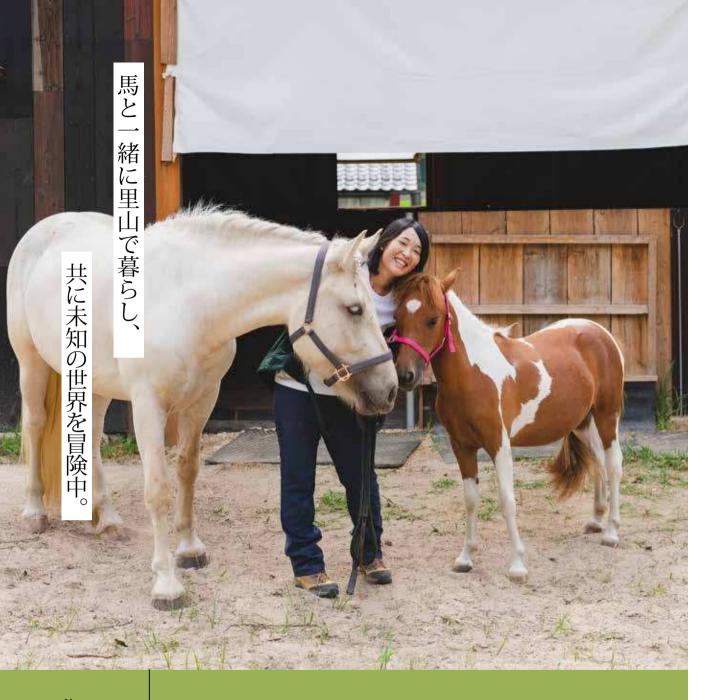
湖北の木材を活用してものづくりする人











すべては、

馬と一緒に暮らす生活のために

早朝、凍てつくような寒さの中、白い 息を吐きながら木と木の間をぬって丸太 を運ぶ馬。馬の息使いと、師匠の馬への 掛け声が森の中に響く静かな森の中、人 と馬が息を合わせて働いていました。 一 歩間違えば馬も人も危ない作業。緊張感 漂う現場で、私は重たいチェンソーを担 ぎ、雪をかきわけ必死に食らいついて夢 中で作業をしていました。

東北・北海道での約1年の研修を経て長 浜市の協力隊となったいま、私は2頭の 馬を迎え入れ日々一緒に暮らしていま す。まだまだ一緒に山仕事はできません が、これから長浜市で私と馬だからでき る『仕事』を創っていきたいです。馬の 背に乗って揺れを感じたり、馬にブラシ をかけ毛並みに触れたり、歩幅を合わせ て散歩に行ったり、のんびり一緒に過ご して深呼吸することを思い出したり、馬 と過ごす時間はたくさんの学びにあふれ ています。そんな学びを体感してもらえ るような場をこれから創っていきたいと 思います。



馬と家族のように暮らしながら関係を

築いていきたい。そのためにはどのよう な仕事なら理想の関係を馬と築いていけ るだろう。そんな事を考え、各地の馬と

暮らしている人たちの元へ足を運びまし

た。その中で大きな出会いとなったのが

「馬搬(Horse Logging)」です。馬搬と

は山で伐採した木材を馬に曳かせて搬出

する技術のことです。人では到底動かせ

ないような重たい丸太を馬は運び出すこ

とができます。馬が全身に力を込めて丸

太を運ぶ姿に圧倒された私は、気づけば

チェンソーや山仕事道具を車に詰め込

み、馬搬を学ぶため東北、北海道へ旅立

っていました。





1 安全に乗馬を楽しんでもらえるように日々調教中。 2 2頭一緒に放 牧場へ。私の歩くスピードに合わせてくれる。 3 チャームポイントの 三つ編み。 4 生木から作ったスプーン。いつか馬搬で出した木で。



Horse Logger

馬と一緒に山から木を搬出する人

隅田 あおい Aoi Sumida

滋賀県高島市出身。幼少期より馬が好きで、中学~大学生時代に乗馬ク ラブの手伝いをしながら乗馬を学ぶ。大学卒業後、養老牧場に就職。よ り馬と関係を深めるため馬と一緒に暮らす道を模索し始める。長浜市で 半年間山什事を学び、東北・北海道にて1年間の馬艪研修を経て長浜市 地域おこし協力隊になる。現在2頭の馬と『仕事』を創造中。



自然に寄り添った発想で、

生産第一ではなく循環する林業を

家族で遊びに来ていた湖北地域が大好き でした。山あり、湖あり、冬には美しい 雪景色、そんな場所にいつか住んでみた いと思っていました。長浜市では協力隊 が自伐型林業というものに取り組んでい ることを知り、林業には興味があったの で自分も迷わず協力隊の活動を決心。 チェンソーも持ったことのなかった私で したが、林業協会講師の方や協力隊第1 期の先輩らにチェンソーを使った技術や 知識を学び、伐倒作業や倒木処理、剪定 作業などが出来るようになりました。現 在はその技術や知識を使って放置された 山林の整備(伐採、草刈り、剪定等)や 山林資源の有効活用に取り組んでいます (特に薪や炭など燃料系)。

私は愛知県の生まれですが、幼い頃に

他にも、元々あった壊れかけの炭窯を 自分たちで作り直し、山林整備で伐り出 した材を使い炭焼きをしたり、自宅の薪 ストーブで使う薪を確保したりしていま す。ここで私が大事にしていることは、 元気な立木を必要以上に伐るということ ではなく、放置され荒れた山林の整備に よって出た材を、薪材や炭材、建材のた めに有効活用することです。そしてそれ が循環していることです。これが私のめ ざしている林業です。エコ(エコロジー) という言葉は「自然環境に負荷をかけな い」、「人間生活と自然との共存をめざす 考え方」という意味があります。一時の

利益のための施業ではなく、持続可能で 山林のバランスを考えた施業をめざして いきたいです。

また、我が家ではゲストハウスをやっ ています。ただのゲストハウスではなく、 地方の魅力を発信していこうと考えてい ます。また、準備中ではありますが間伐 材で作るログハウスや木の遊具や薪、炭 などの山林資源を使った体験ができるよ うにしていきたいと思っています。そし てゲストハウスでの体験を通じて地方移 住や山林に興味を持ってもらい、関係人 口が増えたらと考えています。









後の作業が効率的。 2 庭にログハウスや木製遊具などを設置するため、重機を

No



Forestry Worker

口

理想とする林業を追い求め実践する人

堀田 涼介 Ryosuke Hotta

愛知県犬山市出身。着任以前は、保険外交員のほか、陸上自衛隊として 架橋作業などに携わった経験を持つ。全国各地を旅する中で、改めて湖 北の自然に魅せられて長浜市の地域おこし協力隊に。現在は、余呉地域 で自伐型林業に取り組み、森林整備や山林調査、立木の伐採、剪定作業 を行う。また、同地域内でゲストハウスも運営中。

INFORMATION

ゲストハウス Blue Bear 滋賀県長浜市余呉町下余呉970 ホームページ https://bluebear.prcms.jp/_m/





数年前から長浜市余呉町に縁があり、 地域の人たちと交流する中で、移住への 思いが強くなりました。自然に囲まれて 仕事ができること、父方の祖父が木曽の 林業家だったことなどから林業に強い関 心がありました。林業系の講習に通い、 知り合いの山で伐倒の練習をさせてもら うなど、地域おこし協力隊の着任前から 今につながることをしてきました。そう した中で、長浜市で自伐型林業の協力隊 の募集がありました。

着任してからは、地域に溶け込み、こ こでの暮らしを満喫しようと動いてきま した。自治会の活動、直会、近場の森林 関係の活動に積極的に参加し、協力隊と いうこともあってか、早く顔と名前を覚 えて頂け、嬉しかったです。

現在も協力隊のテーマに沿う形で、木 と山に関する活動に取り組んでいます。 移住してから始めたことで継続している ものとしては、森林整備、薪作り、樹上 作業、ツリークライミング、庭木の剪定、 炭焼き、炭火焙煎、樹木調査、草刈りな どがあります。個々の取り組みに共通す るのはやはり「木」。木と向き合う時間が 多い3年間でした。

任期後は林業の協力隊 OB が結成した LLP 木民に加入する予定です。木民の事 業と個人で行う事業を上手く棲み分けて 活動していきたいです。木民では山林施

業、ツリーケア・伐採、薪炭の製造販売 などを、個人では庭の剪定仕事、炭火焙 煎したコーヒー豆の販売を行っていく予 定です。

暮らしについて言及しますと、この地 域のお米は本当に美味しいです。さすが 淀川水系の源流地で、水の質がいいので しょうね。水は暮らしに必要不可欠なも のです。山を整備することは水を守るこ とにつながるので、これからも良質な自 然環境を持続できるような山林への関わ り方をしていきたいと思います。

「木」と向き合いながら、

山での生業で暮らしていく



1 木に登り、これから伐る枝を観察。伐る前に頭の中でシミュレーション を行う。 2 樹上作業の道具の確認。道具の重さは全部で約10kg。 3 バッ テリーチェンソーで枝を伐る。炭材やその燃料等に利用する。

Tree Worker

木を伐ることで木を守り森を育てる人

子林 葉 Yo Kobayashi

No

大阪府羽曳野市出身。大学を卒業後、東京で金融系のシステム開発の仕 事に携わる。デスクワーク、PC作業は得意な方だが、外仕事の方が好 き。地域おこし協力隊の任期終了後も余呉町に定住すると決めている。 現在、実家暮らしなので家探し中。人間と木の持続可能なあり方を考 え、実践していくことが今後のテーマ。

INFORMATION

TEL: 090-9714-8149 Mail: koba.cfl@gmail.com No



lam Local Researcher

中山 恵梨子 Eriko Nakayama

栃木県矢板市出身。文化財保存修復への興味から美術大学で工芸技術 について学び、地場産業のメーカーで商品開発の仕事に就く。数々の地 場産業の担い手たちとの交流を通して、目には見えない「無形文化」へ の理解の必要性を感じ、大学院で文化資源学を学び修士号を取得。 2019年3月から長浜市地域おこし協力隊に着任し、その土地の日常の 暮らしに根付いた文化を大切にしながら、地域資源の商品企画やサポー トを行っている。

INFORMATION

カフェと日用品 コマイテイ 滋賀県長浜市木之本町木之本1110 https://www.instagram.com/komai_tei/ TEL: 070-1388-5418 Mail: info@kei-fu.com













長浜出身のパートナーからの仕事の誘 いがきっかけで遊びに来るようになり、多 彩な歴史文化に惹かれて移住を決断しま した。移住を決めた後に協力隊の募集を 知り、じっくり腰を据えた視点が必要な地 域資源や文化を取り扱う活動を行うには 適した制度だと考えたため応募しました。

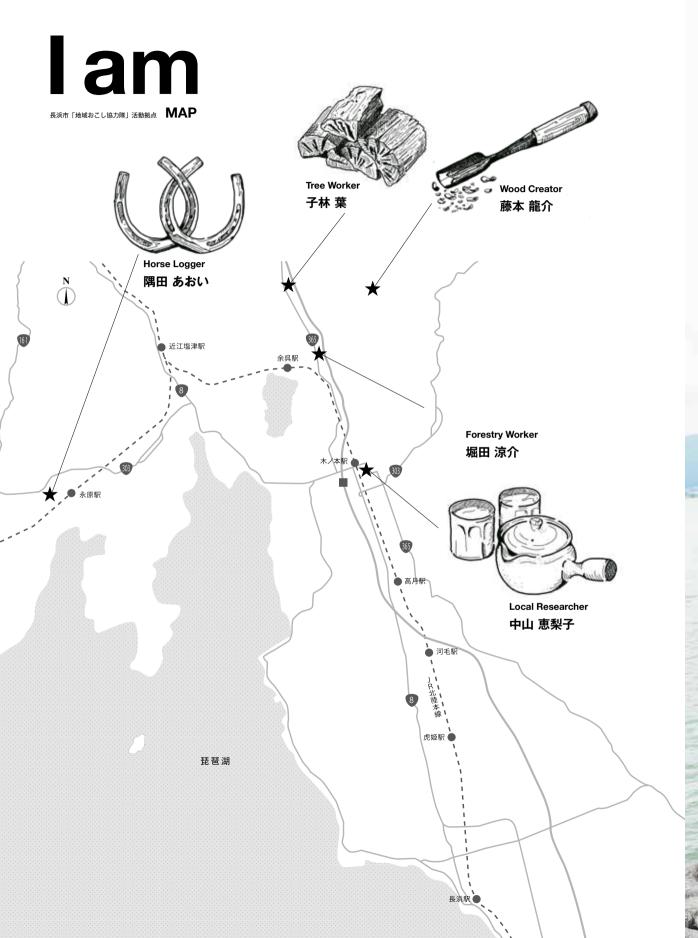
私の活動のテーマは「在来種のお茶の活 用」でしたが、お茶に関する活動を軸にし ながら広い範囲で活動を行っています。ま ずお茶に関しては在来品種の茶葉が発酵 茶に適していることを発見し、和紅茶の試 作を重ねて今年はテスト販売につなげま した。来年は市内で和紅茶の製造ができ ないか模索するつもりです。また、余呉町 菅並にある古いお茶畑を地域づくり協議 会さんや地元住民の皆さんと一緒に再生 し、この地域に伝わってきた自家用の手揉 み茶作りの文化を残すための活動をして います。今年度は余呉町の住民を対象に 手揉み製茶の体験会を企画し、参加者の

地域資源の可能性と魅力を 最大限に活かした商品作り

方たちに大変喜んでいただけました。今 後も文化継承の現場として活用できるよ う、地域の皆さんと協力しながら茶畑整備 を進めていくつもりです。

お茶以外の地域資源の商品企画のサポ ートなども行っており、例えば西浅井町菅 浦では、歴史的背景の古い柑橘類の再生 をめざしてジャムやドライフルーツの企 画をお手伝いしています。また、古くから 余呉町山間部で作られていた「小原かご」 については作り手が一人しかいない現状 を知り、技術が途絶えないよう自分自身が 担い手として作り方を学びました。現在 は材料採取からかご編みまで行えるよう になり、かご編みのワークショップなども 実施しています。

活動の基本的な考え方として、その土地 に暮らす人たちの考え方や感じ方を尊重 しつつ、将来につなげるための後押しをし ようと心がけています。普段は活動拠点 として運営している「コマイテイ」という カフェにいることが多いので、「この地域 の大切なものや文化を残したい」と活動し ている方は、何か相談ごとがあればぜひ一 度お話しにきてください。



community-reactivating cooperator squad

Activities report 2021

2021年 9月 発 行:長浜市北部振興局 まちづくり推進課

協力

ディレクション&デザイン: 桐畑 淳 撮 影: ツジタシンヤ



lam community-reactivating cooperator squad.